

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型） 2021年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	福祉学科・3年	櫻井 宏樹
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部・教授	西田 恵子
研究課題	新型コロナウイルス下における新しい多世代交流のカタチ ～被災地「檜葉」との協働～	
研究年度	2021年度	
プロジェクト 分担者	橋本明咲 田所紀美 池田和真 駒田充 中村文香 吉田紗矢香 齋藤千夏 松尾海士	

プロジェクトの内容及び成果の概要

1. 本プロジェクトの概略

本プロジェクトは、東日本大震災被災地の福島県双葉郡檜葉町の地域住民及び社会福祉専門職の方々と協働し、交流会の開催等の活動を行い、一連の活動を通じて、地域と世代を超えたコミュニティ構築の有効性を考察することを目的としている。また、檜葉町におけるコロナ禍での変化や対策などにも着目し、地域の行事はどのようになっているのか、交流の場はあるのかなどの事項を調査し、コロナ下による遠隔という条件のもとでの新たな交流の可能性を追求し、檜葉町各地区のミニデイに参加されている高齢者の方々と交流会と、檜葉町地域包括支援センターの職員の方々と交流会を実施した。

2. 内容

① 檜葉町の住民の方々と交流会の企画・実施

② 檜葉町地域包括支援センターの職員の方々と意見交換会の企画・実施

Zoomを使った交流会のプログラムは、地域包括支援センターの職員の方々からの情報提供をもとに、アイスブレイクとしての立教と檜葉町についてのクイズ、おしゃべり会、指先の運動を兼ねた手話歌を計画し、1時間程度実施した。実施の際には、プロジェクトメンバーがそれぞれ役割を分担し、一人ひとりが檜葉町の方々と積極的なコミュニケーションを図ることに重点を置いた。

交流会終了後は、評価として参加者と専門職に別々に用意したアンケートの回答を依頼・回収を行い、プロジェクトの反省点・改善点を振り返り考察した。このことにより、地域を超えたつながりを構築するオンラインツールのメリットと限界点が見えたこと、また、イベント型の多世代交流の場における相互作用に意義があることを認識した。

また、地域包括支援センターの職員の方々と複数回ミーティングを行い、檜葉町の状況や、震災前後のコミュニティの変化について、交流会についての意見、高齢者の方々と交流時に留意すべき点等を、事前に情報収集を行った上で、専門職の立場としての見解を提示していただいた。

3. 考察

交流会、および意見交換会を通じて、Zoom等オンラインツールを用いたつながりは、地域と地域、そしてすでにあるコミュニティとコミュニティをつなぐ、新たな地域づくり支援としての役割が期待できると考えた。一方で、オンラインツールへのアクセス方法の有無等の要素を考慮すると、オンラインツールを用いることがすべての

人を対象とした「参加支援」たりうるとは言い切れないという課題も見えてきたことから、昨今の福祉政策による重層的支援へ活用し、システム化することは容易でない面をとらえることにもなった。

また、地域包括支援センターの職員の方々との意見交換を通じて、檜葉町をベースとした地域福祉と専門職についての理解を深めることができたと考えている。